

2016. 1. 16

# 「邪馬台国時代の吉備と大和」 岡山県埋文センター — 楯築古墳と纏向遺跡 —

石野 博信

## 楯築古墳の登場

180年頃、キビに巨大な墓が築かれた。倉敷市楯築古墳である。径40メートルの円丘部の両側に、それぞれ20メートルの方形突出部を設け、全長80メートルとなる。楯築以前のキビの大型墓は一辺20メートル程度であり、当時の人々は“山を造る”かのような大土木工事に驚嘆したであろう。しかも、墳丘のまわりに石をめぐらし、さらに墳頂に背丈をこえる巨石を立てめぐらした。その上、墳丘の中心は円丘で、伝統的な方丘墓を作り続けてきたキビの人々にとって、極めて奇異であった。奇妙さは埋葬施設に及ぶ。長辺9メートルの大きな墓壙と二重の木槨と木棺、その中はまさに“朱の海” - 30キロ余の水銀朱が遺体を包む。

列島最古最大の巨大な突出部付円丘墓と墳丘をめぐる石垣と墳頂の列石、そして二重の槨棺と多量の水銀朱。木槨上には礫を積みあげて密封し、礫内に特殊文様を刻んだ組帯文石（弧帯石）を砕いて混ぜ、礫上に呪縛した人面付組帯文石を置いた。

## 遅れて纏向石塚古墳

2世紀末のヤマトは驚いた。この頃ヤマトでは、伝統的な方形周溝墓が一般的であって、大きさも10～20メートルしかない。もちろん、墓に石をめぐらすこともなく、木槨もない。

ほぼ一世代遅れの210年頃、全長96メートルの突出部付円丘墓である纏向石塚古墳が造られた。キビの最新情報がどの程度ヤマトに伝わっていたのか？ 大きさは楯築古墳をこえたが、墳丘をめぐる石垣・葺石も墳頂の列石もなく、突出部は一つになった。楯築古墳に続いてキビでは、一突起円丘墓の立坂古墳や宮山古墳が築造されているので、それらの情報が加わっていたのかもしれない。とくに、宮山古墳の葺石は一部に限られているので、墳丘に石をめぐらすことのないヤマト型を考案したのかもしれない。纏向地域には石垣も葺石もない纏向勝山古墳、纏向矢塚古墳、東田大塚古墳が続けて造られている。

## ヤマトでは異質なホケノ山古墳

3世紀中頃、纏向地域の一画に全長80メートルの一突起円丘墓であるホケノ山古墳が造られた。墳丘には二段に石垣をめぐらし、埋葬施設は“石囲い木槨、木棺”で、その上に礫の方丘をつくる。楯築古墳と同様、槨底に“枕木”を数本おくが、異なるのは槨内に四本柱と棟持柱を立てて、墳丘内に家形木室を設けている点である。さらに大きな違いは、キビ特有の特殊器台がないことと楯築古墳にはなかった銅鏡をもつことである。

ホケノ山古墳は、大きく瀬戸内中・東部の2～3世紀の墓と共通するが、特殊器台をもたない点でアワ、サヌキの墓と一層の親縁関係がありそうだ。墓壙内柱穴は、半島南部の慶尚道から全羅道に30数基知られているので、瀬戸内海をこえた交流が考えられる。おそらく、ホケノ山古墳の被葬者は、半島と往来していたアワ、サヌキの海洋民であろう。ヤマトは、彼らの協力によって、海外貿易を進めることができた。

## キビに少ないヤマト系土器、ヤマトに少ないキビ系土器

キビ創案の突出部付円丘墓を早い段階で受け入れているヤマトにキビの土器が意外と少ない。

2世紀後半（纏向1類）からヤマト纏向にやってくる“外人”が目立ってきた。中でも美濃・尾張・伊勢（以下、オワリと略称）の人々が外人の約50パーセントを占めたが、キビも約20パーセントと目立っていた。それが3世紀に入るとキビ人は7パーセント（纏向2類、同3類前半）から3パーセント（纏向3類後半、同4類）へと激減する。

秋山浩三さんによると、カワチでは、約70パーセントのムラやマチにキビ人が来ており、ヤマトとの違いが著しい。カワチとキビの交流はさかんで、岡山市津寺の庄内型カメの大半はカワチ型でヤマト型はきわめて少ない。

## ヤマトに特殊器台をもつ大型古墳が多いのはなぜか

それなのに、ヤマトにはキビ系と言われている特殊器台と特殊器台系埴輪が多い。おおよまと古墳集団の中の中山大塚古墳や箸中山古墳（箸墓）などである。中山大塚古墳の宮山型特殊器台文様は、向木見型のある段階から分かれて成立し、同古墳で共伴する都月型特殊器台文様の祖型は纏向石塚古墳「弧文円板」だと豊岡卓之さん（橿原考古学研究所）は言う。宇佐晋一さんと斉藤和夫さんは「弧文円板」文様がなければ楯築古墳の弧帯石文様は成立しえないと指摘しておられる。しかし、楯築古墳と纏向石塚古墳の共伴土器は、明らかに楯築古墳の方が古いので私は次のように考えた。纏向石塚古墳では2世紀後半には成立していた組帯文を弧文円板に刻み、3世紀初頭に使用した、と。

人々の交流を具体的に示す土器が少ないのに、葬送儀礼用具である特殊器台が多いのはなぜだろう。

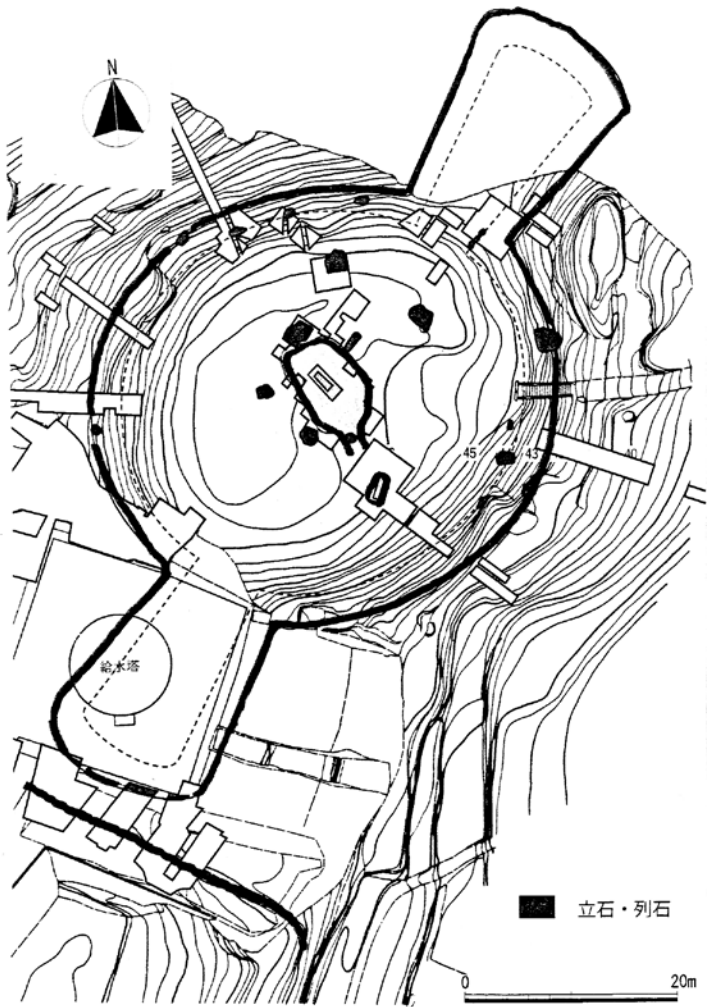
- A. 楯築古墳と次世代の纏向石塚古墳段階には、祭政を含むキビ主導のトップクラスの強い関係があった。その後、ヤマトが主導権を握って大型墓を作り続け、人的交流はカワチが担当した。
- B. キビがヤマト・カワチを征服し、カワチに新政権を築いて、ヤマトを墓域とした。
- C…………、D…………と想像はふくらむが当日の討議の課題としたい。

## 参考文献

- 秋山浩三ほか 2000 「近畿における吉備型甕の分布とその評価」『古代吉備』22
- 石野博信・関川尚功 1976 『纏向』桜井市教育委員会
- 石野博信 2002 『邪馬台国と古墳』学生社
- 宇佐晋一・斉藤和夫 1976 「纏向石塚古墳周濠から出土した弧文円板の文様について」『纏向』所収
- 近藤義郎編著 1992 『楯築弥生墳丘墓の研究』楯築刊行会
- 豊岡卓之 1999 『古墳のための年代学－近畿の古式土師器と初期埴輪』奈良県立橿原考古学研究所附属博物館

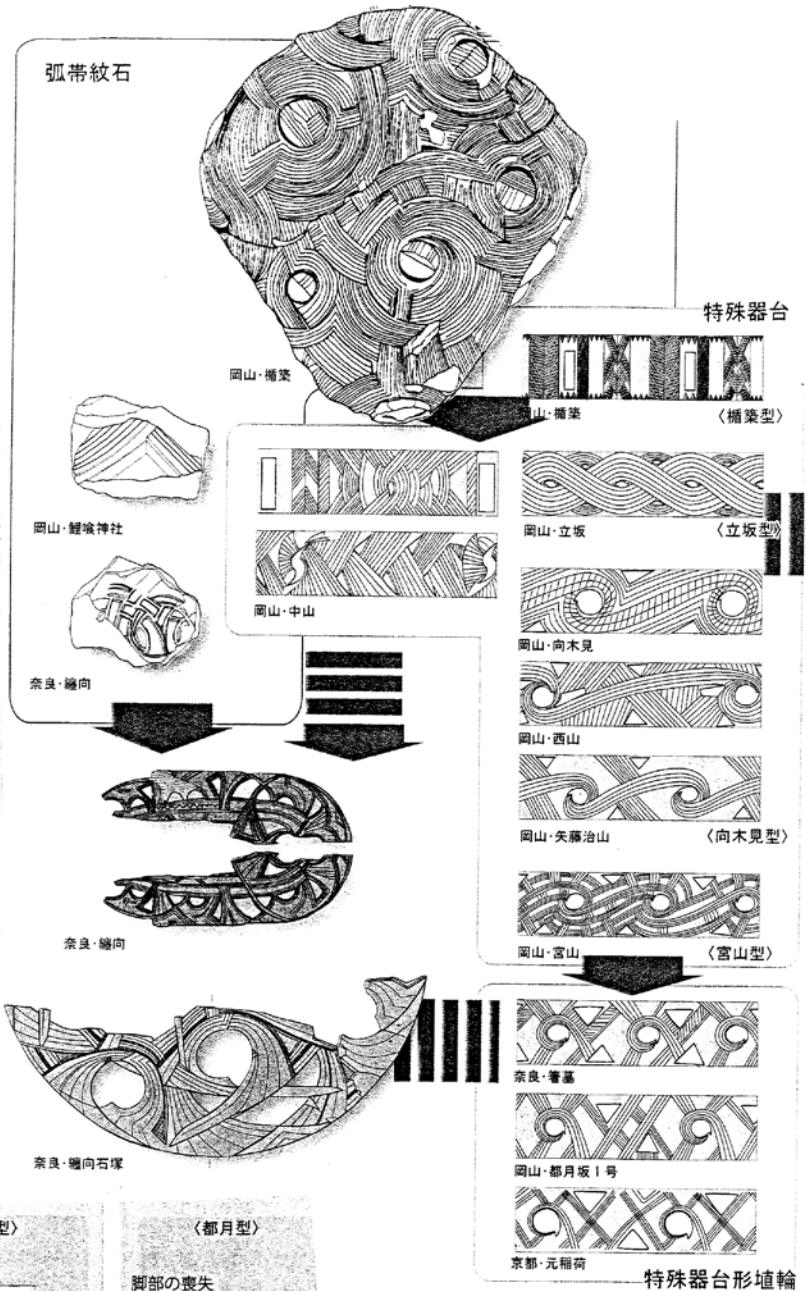
奈良県香取市ニ山博物館 編 2002  
『邪馬台国時代の吉備と大和』

# 1 吉備 楯築古墳



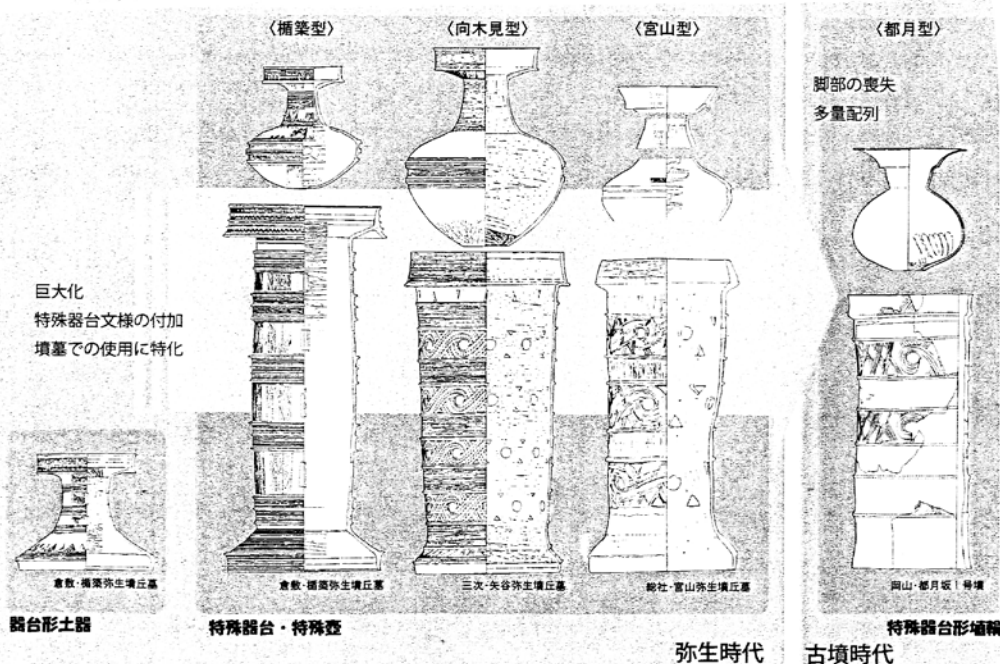
19. 楯築弥生墳丘墓全体図

2



17. 特殊器台文様の起源と変遷

## 3 器台形土器から埴輪へ



12. 器台～埴輪の変遷

1~3

『直弧文の世界』2015  
岡山県史センター

※ 反響  
「葬儀用器台」の  
成立と変遷

4

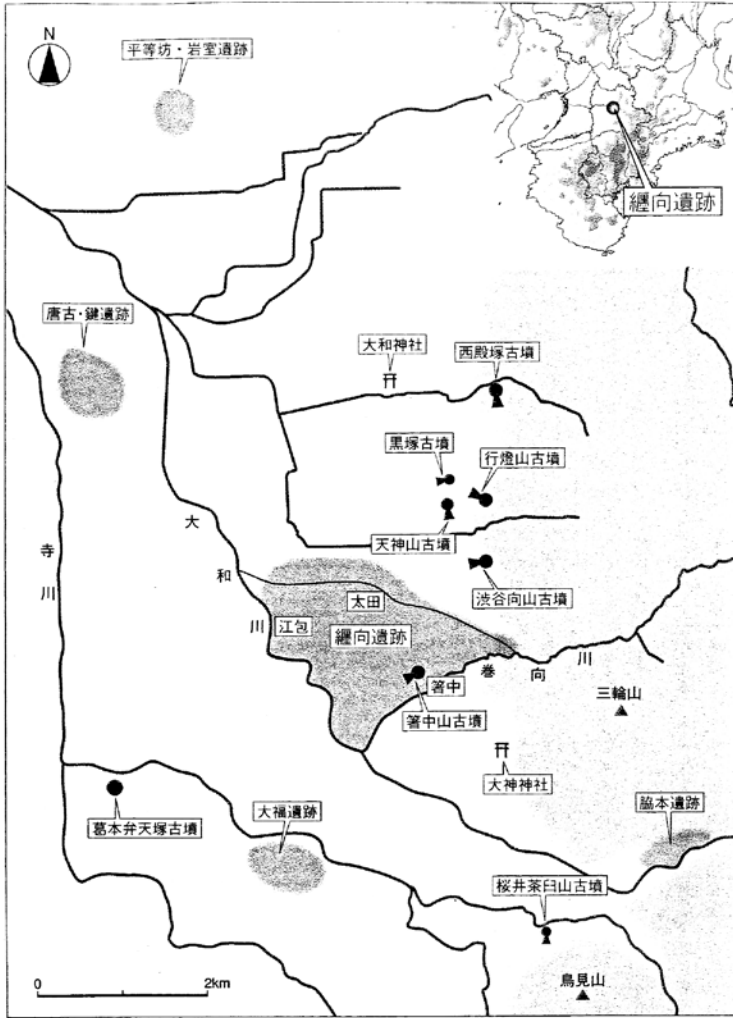


図2 ●纏向遺跡とその周辺

6

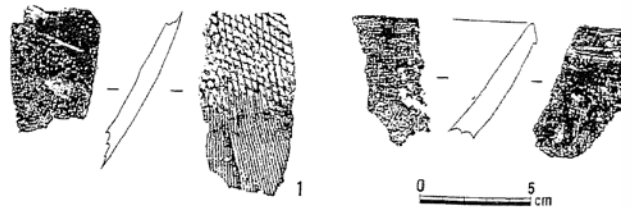


図7 纏向遺跡の朝鮮半島系土器

7

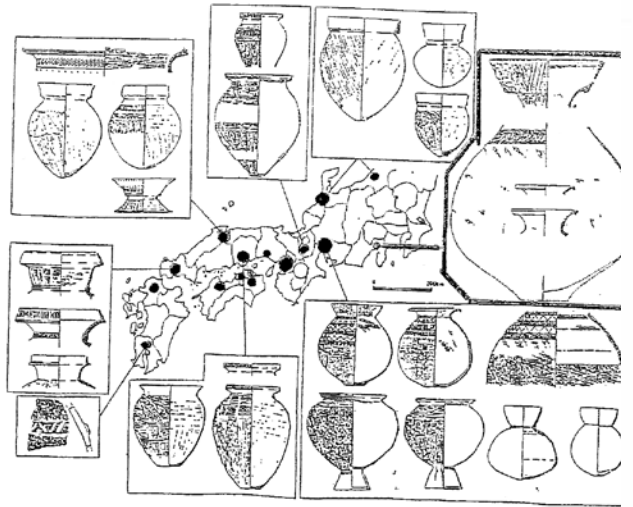


図6 纏向遺跡の外來系土器 (石野博信『古代近畿と東西交流』)

5

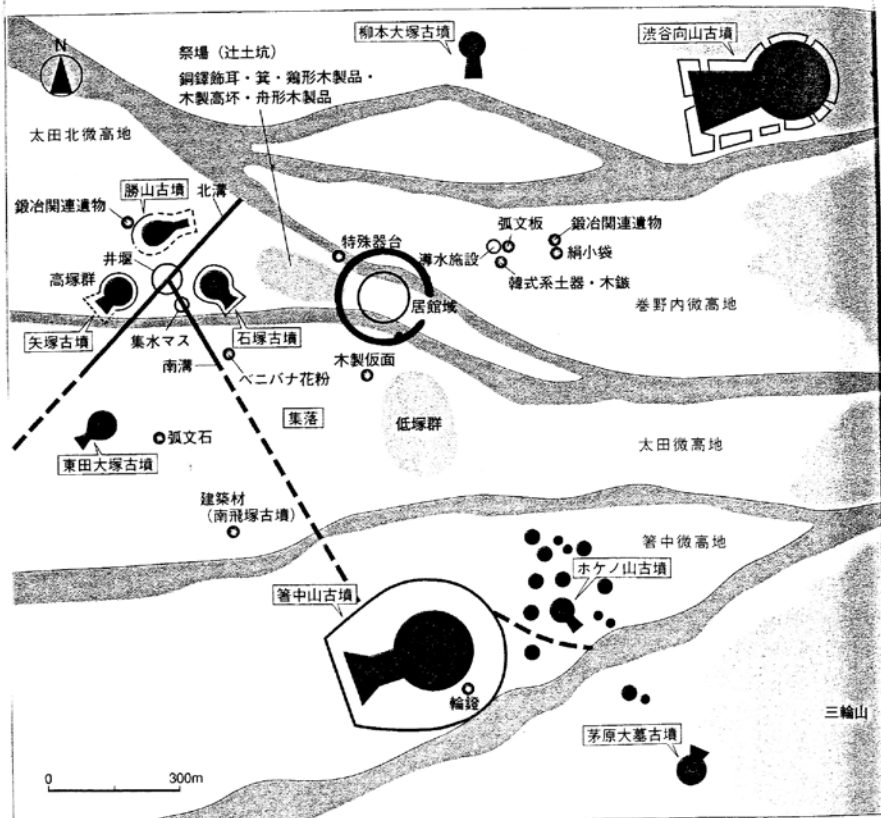


図3 ●纏向遺跡  
三輪山北麓の穴師・車谷から流れる旧河道が纏向地域の水源となり、いくつかの居住地と墓域を結ぶ。

8

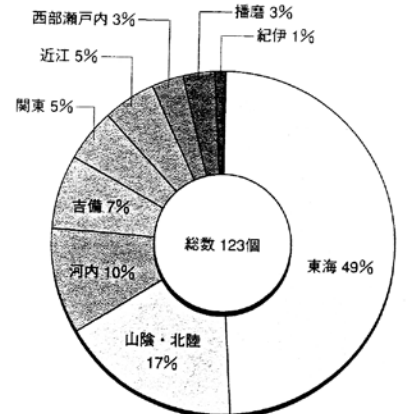
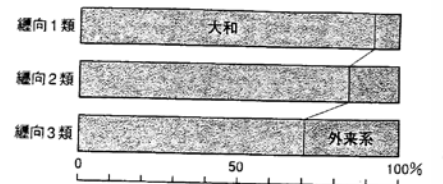


図13 ●纏向の外來系土器の比率  
比率は調査地点によって異なるが、祭祀関連の遺構では外來系土器の比率が高い。

4

# 9 纏向王宮

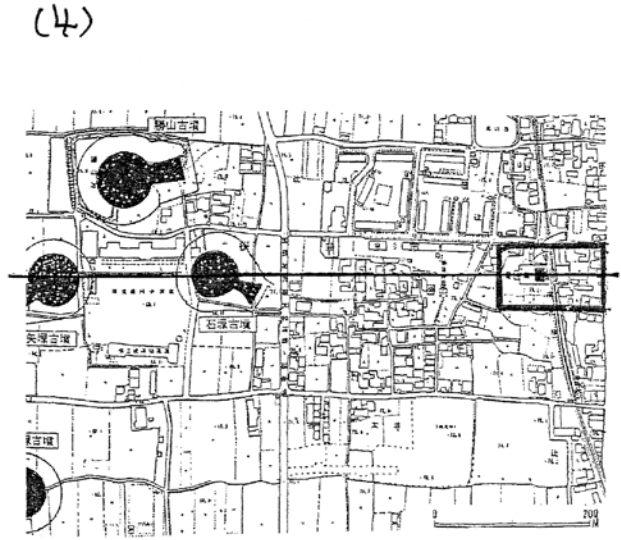
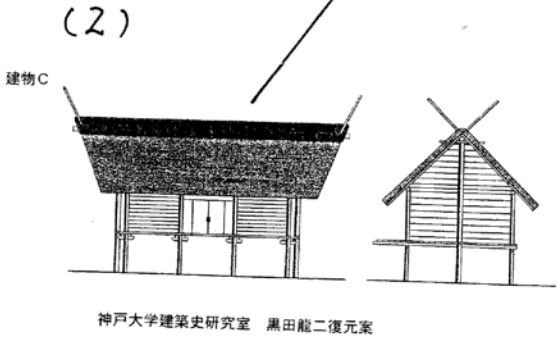
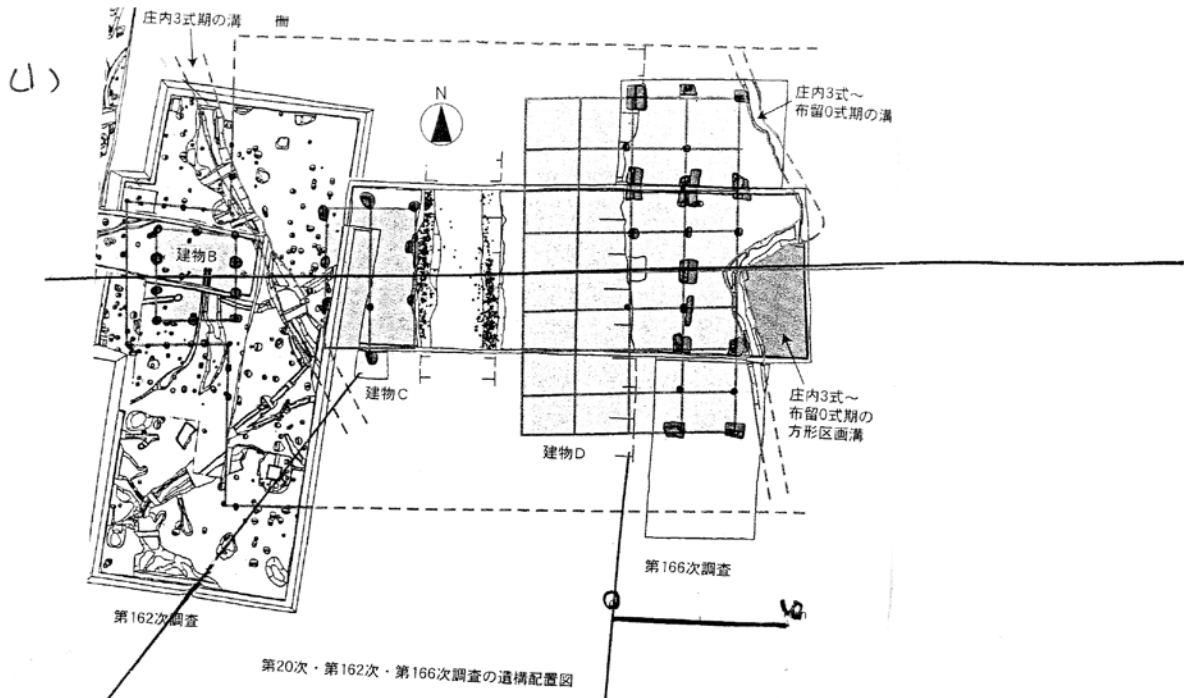


図4 纏向王宮と纏向古墳群



- \* 石野 2008 『邪馬台国への候補地 纏向遺跡』新泉社
- ” 2010 『弥生興亡 女王・卑弥呼の登場』文芸春秋
- ” 2015 『纏向王宮と新中山古墳(箸墓)』箸墓古墳の学生社。

# 10 纏向石塚古墳

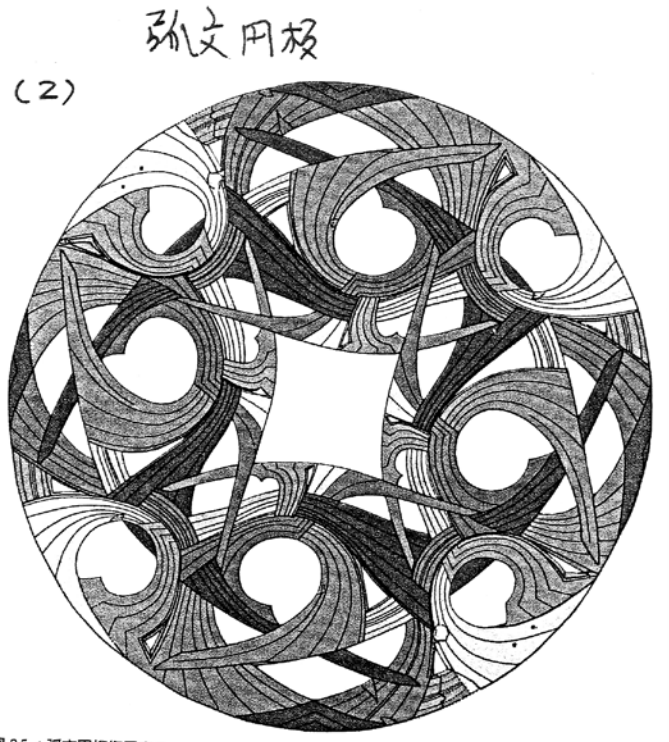
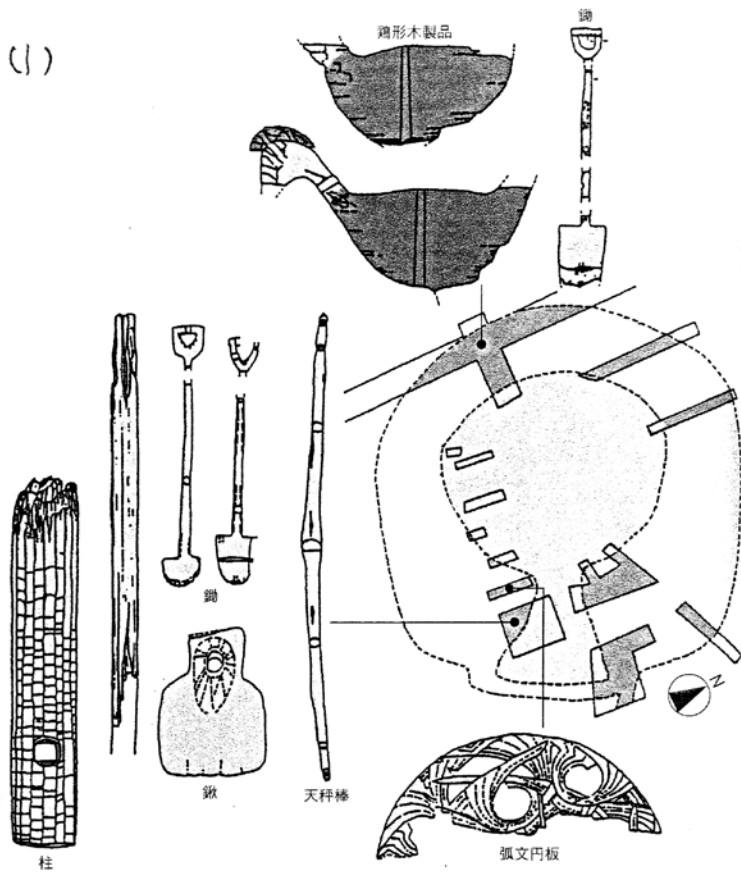


図35 ●弧文円板復元案B

●纏向石塚古墳の木製品出土位置  
南のくびれ部周縁内には、白木の柱が立ち、弧文円板をはじめ鉤、籬や天秤棒がともなう。

# 12 纏向木ケノ山古墳

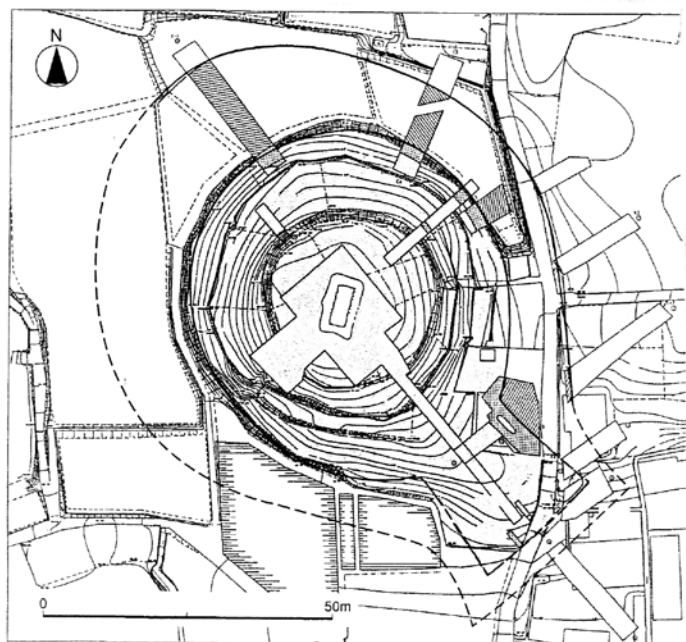


図38 ●ホケノ山古墳  
3世紀中葉の全長80m余の長突円墳。突出部端は後世の河川氾濫で削られており、不確実。

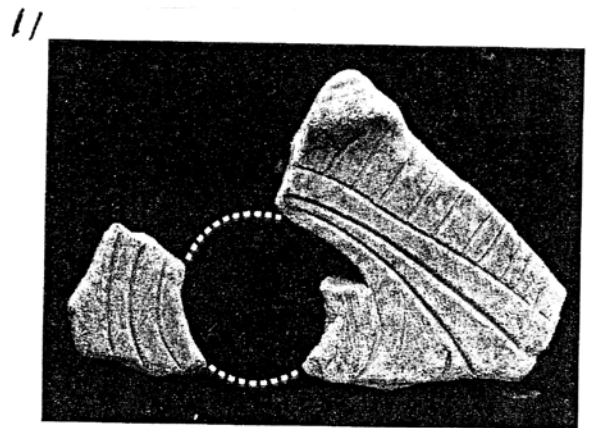
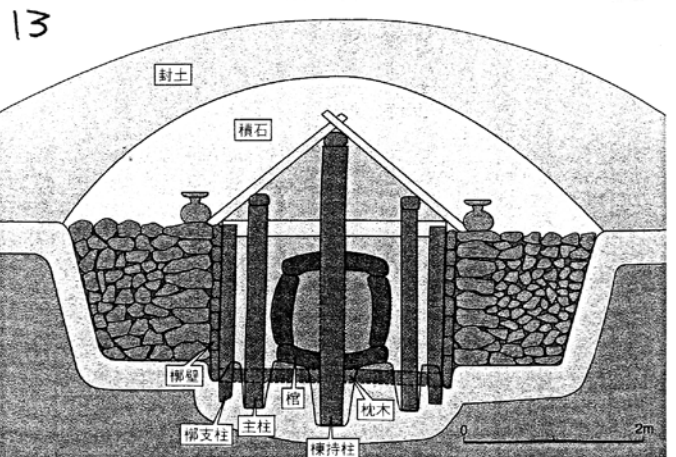
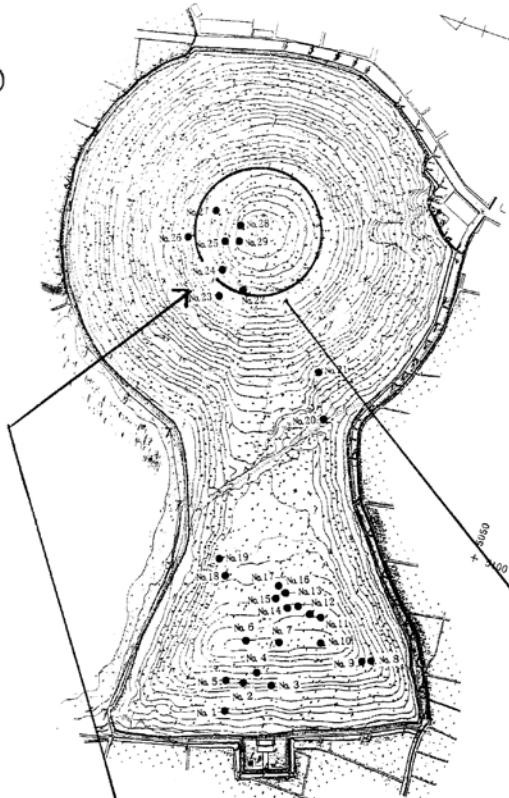


図11 特殊器台  
胎土は茶褐色で表面は赤彩。同一個体ではないが、巴形すかし孔の部分を示す。



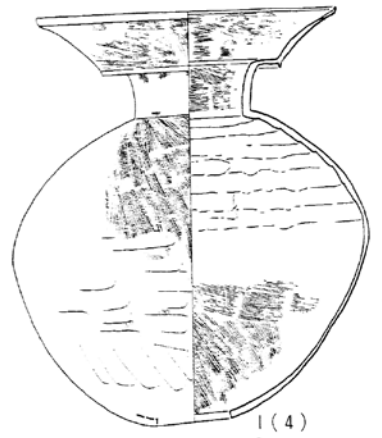
14 箸中山古墳 (箸墓) —— (1) ~ (10)

(1)



(2)

大市墓の出土品  
調査概要  
至昭和四十九年四月  
至昭和五十年三月



書陵部紀要第27号 (昭和五十年度)

大市墓野原

0 10 20 30cm  
(縮尺 1/5)

(3)

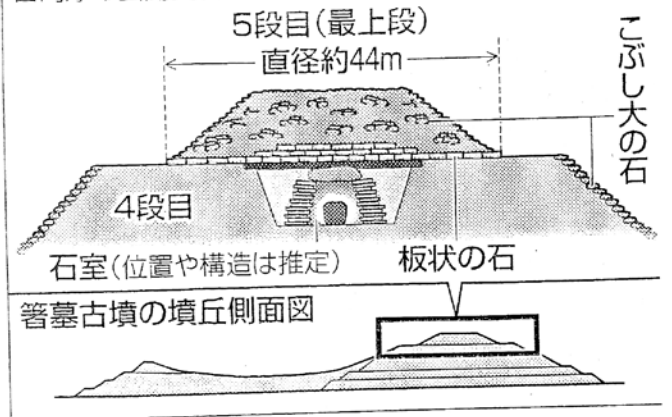


朝日新聞 2012. 9. 12

(4)

箸墓古墳後円部頂の想像図 (イメージ)

宮内庁の公開資料を元に作製



(5)

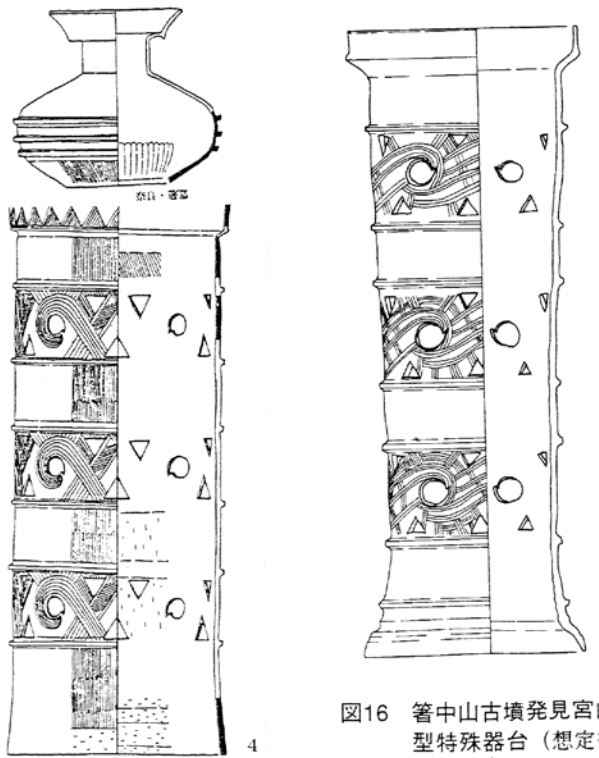


図16 箸中山古墳発見宮山型特殊器台 (想定復元図) 近藤 2001

(6)

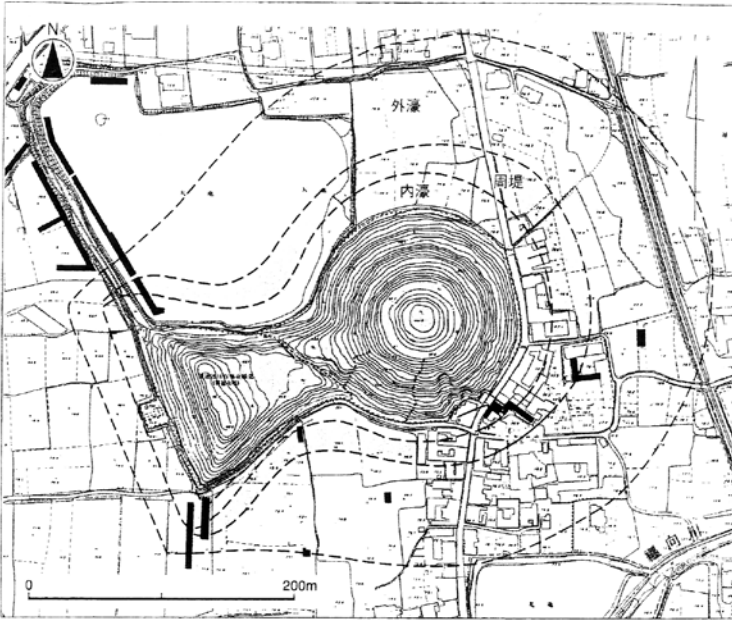


図 47 ● 菅中山古墳 (菅壘)  
 菅中山古墳には周濠はないと考えられていた頃、1982年に幅120mの巨大な周濠の存在を提示した。当時、賛同は得られなかったが、1997年の福原考古学研究所と桜井市教育委員会の調査によって同規模の二重周濠が確認された。

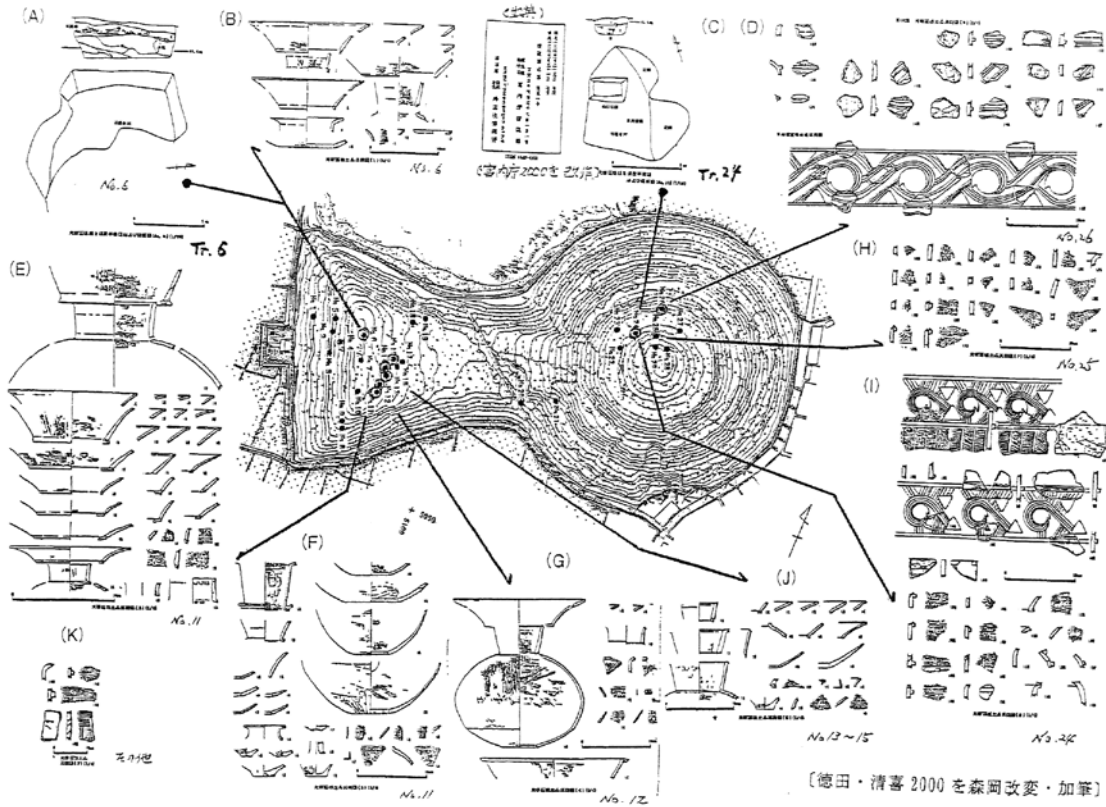
(7)



25 前方部北側の葦石と墳丘

(8)

菅中山古墳 前方部上の葬儀用痕と葦石 (森岡芳人 2015)



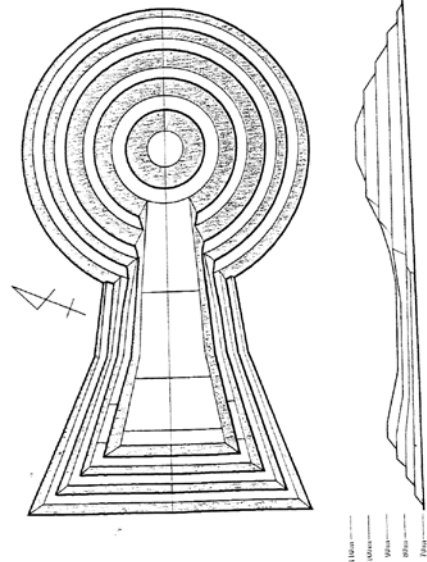
[徳田・清喜 2000 を森岡改変・加筆]



(9)

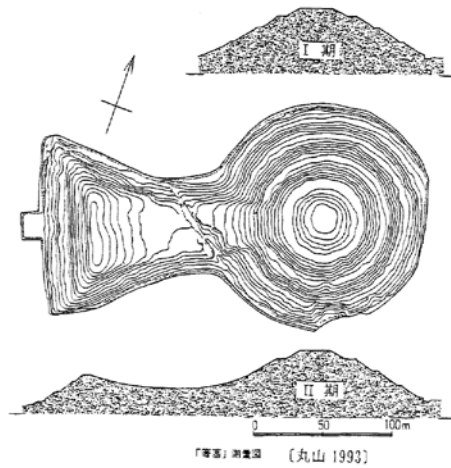


100m  
0

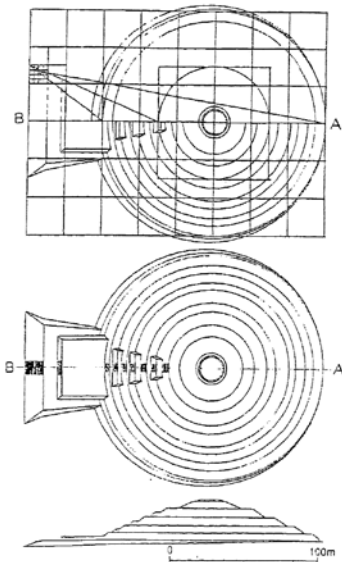


58 箸墓古墳墳丘復元案 (S = 1/3,000)

(10)



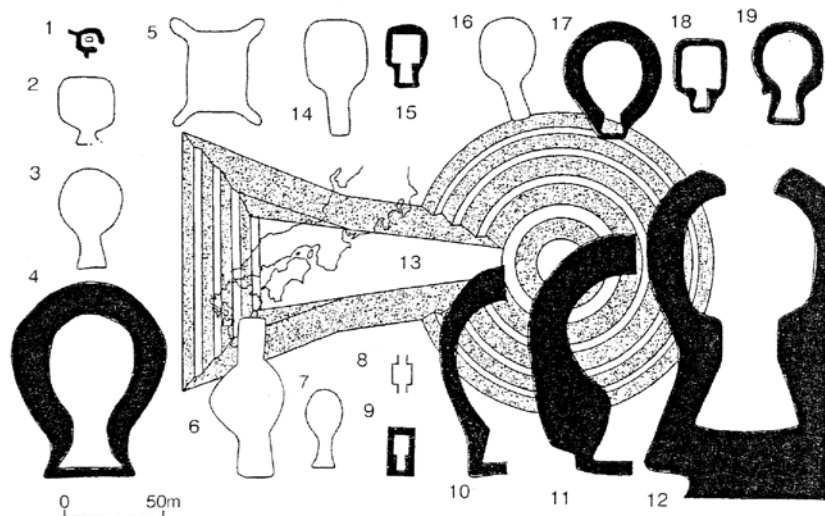
「箸墓」測量図 (丸山 1993)



(菊谷 2001)

図5 菊谷俊介による短小な方形部付峙(第一次)跡画

(11)



- |           |            |               |           |
|-----------|------------|---------------|-----------|
| 1 福岡・平原   | 6 岡山・橋築    | 11 奈良・纏向石塚    | 16 長野・高遠山 |
| 2 福岡・津古生掛 | 7 香川・鶴尾4号  | 12 奈良・中山大塚    | 17 千葉・神門4 |
| 3 福岡・光正寺  | 8 兵庫・養久山5  | 13 奈良・箸中山(箸墓) | 18 千葉・高部  |
| 4 福岡・那珂八幡 | 9 京都・芝ヶ原   | 14 滋賀・小松      | 19 福島・杵ヶ森 |
| 5 鳥取・西桂見  | 10 奈良・ホケノ山 | 15 愛知・廻間      |           |

図55 3世紀の大型古墳 (石野『邪馬台国の考古学』吉川弘文館、2001年)

# 石積み頂上高まる関心

## 奈良・箸墓古墳の宮内庁調査資料

宮内庁は箸墓古墳を第7代孝靈天皇の皇女、倭迹迹日百襲姫の墓として管理し、立ち入りを制限している。朝日新聞は同庁書陵部が1968年と71年、74年に前方部と後円部の最上部を調査した際の写真計測図や、調査結果を報告した文書、出土土器や調査地の図面などを入手した。

写真からは、5段になった後円部の最上段の全面が、こぶし大の石で覆われていることが分かった。68年の調査の報告文書には「後円部頂上全面葺き石確認」とあった。

箸墓古墳の最上段が石積み状であることは、これまでも宮内庁の関係者がそれをなく指摘していた。同庁に陵墓管理について助言していた考古学者

### 特異な構造 大王墓の見方

奈良県桜井市の箸墓古墳（3世紀中ごろ後半、全長約280m）。古墳時代に東北地方南部から九州まで広がった前方後円墳の原型とされ、3世紀半ばに没した邪馬台国の女王・卑弥呼の墓という説もある重要な古墳だ。その古墳の特異な構造が、朝日新聞が情報公開請求で宮内庁から入手した資料で明らかになった。石室が未盗掘で残されている可能性も指摘されている。



箸墓古墳の全景  
＝本社ヘリから

研究者が注目するのは、後円部の石積みの裾や、前方部正面の斜面などから板状の石が出土している写真だ。ここからは墳丘の材料として埋め込まれたと推定でき、必ずしも盗掘を示すものではないと見なす。

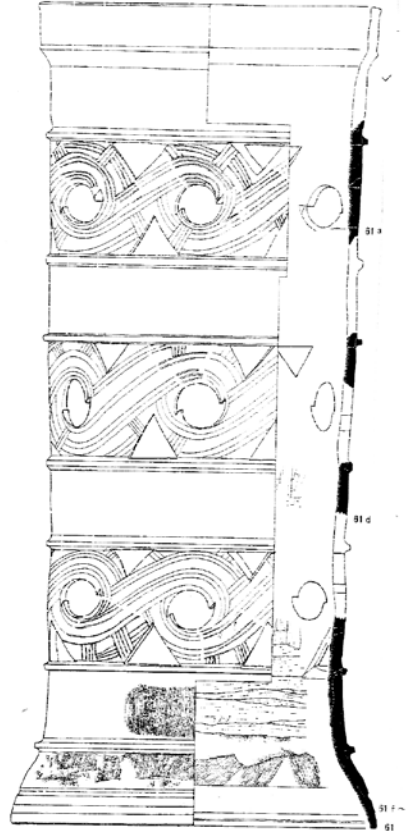
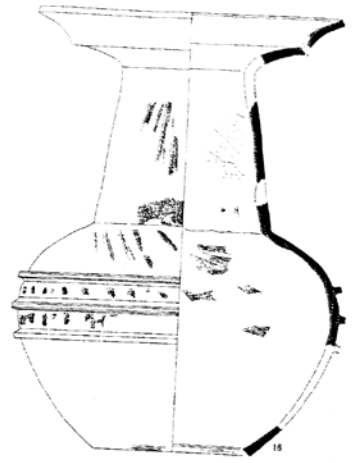
### 板石 未盗掘の可能性示す

研究者が注目するのは、後円部の石積みの裾や、前方部正面の斜面などから板状の石が出土している写真だ。ここからは墳丘の材料として埋め込まれたと推定でき、必ずしも盗掘を示すものではないと見なす。

研究者が注目するのは、後円部の石積みの裾や、前方部正面の斜面などから板状の石が出土している写真だ。ここからは墳丘の材料として埋め込まれたと推定でき、必ずしも盗掘を示すものではないと見なす。

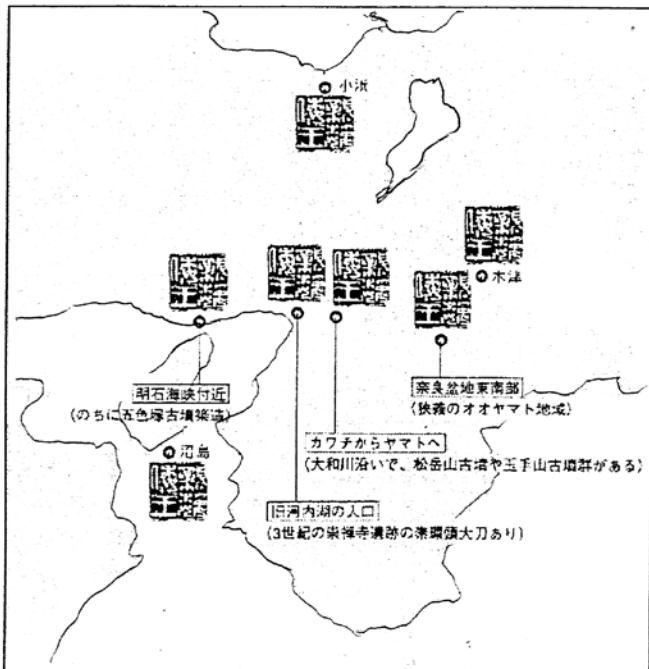
奈良

箸墓古墳



0209 特殊葬台Ⅰ(1:5)

「親魏倭王」金印出土候補地



石野 2008

邪馬台国の候補地

10 纏向遺跡 新泉社に追加